

「被災地忘れない」大槌で熱演月

就実高が音楽会

ようとしていた。

岡山市北区の就実高校の吹奏楽部が3月17日、東日本大震災で津波の被害に遭った岩手県大槌町を訪れ、

県立大槌高とジョイントコンサートを開いた。「被災地を忘れないよ」。その思いを胸に、就実高の生徒たちはこれからも交流を続け

両校の出会いには昨年。国際医療NGO「AMDA」

(岡山市)の招待で大槌高の吹奏楽部が岡山を訪問。

市内のホールで就実高と協演した。その縁で今回は就実側の呼びかけで「絆コンサート2013 in 大槌」が実現した。

大槌高では生徒6人が犠牲になり、吹奏楽部にも家族を亡くし、自宅を失った生徒がいた。でも、震災の1カ月後に練習を再開。顧問の金丸元教諭は「部活は震災前と変わらない日常を取り戻せるやすらぎの場所だった」と振り返る。

今回、就実高から44人、大槌高から22人が参加。かつて避難所だった町の体育館で、観客約60人を前にポップスや東北民謡メドレー

などを披露した。

アンコール曲は唱歌「故郷」。「観客がハンカチで目頭を押さえながら合唱する姿が印象に残った」という就実高の小林巧教諭は、自身も一緒に涙を流しながらタクトを振った。生徒たちも目を潤ませていた。

就実高の newly 部長の清水一希さん(3年)は、大槌高の生徒から「震災を忘れないでほしい」と言われたことが頭に残っている。「被災地で見たことを他の人に伝えたいし、また大槌高と音楽でつながりたい」

演奏会後、就実高は大槌高から手作りの旗をもらった。学校が避難所だったときに間仕切りに使われた布で、中心に「絆」の文字。周りは部員の手形とメッセージで彩られていた。「ありがとうじゃ足りないくらい感謝しています。楽しい時間をありがとう」「大好き。また会おうね」

就実高は今後も手紙を送りあうなど交流を続けるつもりだ。(逸見那由子)



コンサート終了後、記念撮影をする就実高と大槌高の生徒たち。3月17日、岩手県大槌町、就実高校提供